

スナヤツメ

Lethenteron reissneri (Dybowski)

全国カテゴリー；絶滅危惧 類

【選定根拠】 a 分布域の一部で個体数が減少 b 分布域の一部で生息条件が悪化

【形態】 国内では遺伝的に独立した北方型と南方型の2型が確認されているが、明確な形態的差異が認められないため隠蔽種とされている。全長20cm、口には下あごが無く吸盤状、眼の後方にえら穴が7対並ぶ。体は黒褐色で黄色の光沢があり、第2背鰭は淡色。躯幹部の筋節数は56～67個。アンモシーテス幼生は黒褐色、尾鰭は黄褐色または白色。

【分布】 北海道、本州、四国と、鹿児島県、宮崎県を除く九州に分布する。国外では、沿海州、中国大陸北部、朝鮮半島に分布する。

【県内の分布、生息状況】 浜通りの各河川、阿武隈川水系、久慈川水系、阿賀川水系の中流域に主に生息し、淡水域で生活史が完結する。アンモシーテス幼生は主に淵などの砂泥底に生息する。産卵は粒径の小さい砂礫底で行う。分布域は広いが、稲葉（1999）、河川水辺の国勢調査（1996）により確認されていても今回確認されなかった地点もあり、生息数、生息場所の減少が懸念される。

【生息に影響を与えている要因】 河川開発 水質汚濁

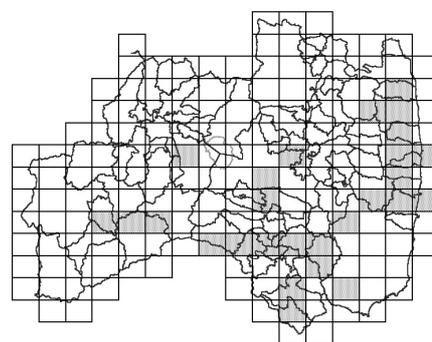
【生息データ件数】 41

【主要文献】

稲葉 修(1999)福島県太平洋沿岸水系の魚類。福島生物, (42) : 7.

Yamazaki, Y. And A. Goto(1997)Morphometric and meristic characteristics of two groups of *Lethenteron reissneri*. Ichthyol. Res., 44(1) : 15-25.

山崎裕治・後藤晃(2000)ヤツメウナギ類における系統分類と種分化研究の現状と課題。魚類学雑誌, 47(1) : 1-28.



ヤリタナゴ

Tanakia lanceolata (Temminck et Schlegel)

【選定根拠】 b 分布域の一部で生息条件が悪化 d 分布域の一部で交雑可能な別種が侵入 産卵母貝の減少

【形態】 全長10cm。体高は比較的 low、口角に1対の口ひげをもつ。背鰭には鰭条に平行の紡錘形の暗色斑がある。産卵期の雄は体側前半が赤紅色を帯び、背鰭前上縁と尻鰭の朱色も濃さを増す。

【分布】 北海道、南九州以南を除く日本各地。朝鮮半島。

【県内の分布、生息状況】 会津地方の一部の小河川、湖沼にのみ分布。生息地での個体数は比較的多い。春季から夏季、ドブガイ等の二枚貝に産卵し、稚魚は1ヶ月で貝から泳ぎ出る。

【生息に影響を与えている要因】 河川開発 池沼開発 水路整備 水質汚濁 帰化生物との競合（タイリクバラタナゴ） 帰化生物による捕食（オオクチバス、コクチバス、ブルーギル） 産卵母貝の減少

【特記事項】 裏磐梯湖沼の個体群は、移植の可能性がある。本種のみでなく、産卵母貝となるドブガイ等の二枚貝の保護が不可欠である。

【生息データ件数】 4